

第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定に向けた KPI 検討会
(第1回)
議事要旨

1. 日 時 令和元年8月22日(木) 13:30~15:00
2. 場 所 中央合同庁舎8号館7階まち・ひと・しごと創生本部事務局内会議室
3. 出席者(敬称略)
[委員]
五十嵐 智嘉子、岡田 豊、増田 寛也(座長)、松原 宏
[内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局]
木下地方創生総括官、多田地方創生総括官補、和田地方創生総括官補、高橋次長、辻次長、田川次長、丸山次長、田口次長、木村次長、橋本参事官 ほか
4. 議 題
○検討会の進め方について
○第2期「総合戦略」における政策体系の整理
○4つの基本目標に係る KPI の見直し・新しい KPI の検討
5. 議事概要
○第2期「総合戦略」における政策体系の整理等
検討会の進め方、第2期「総合戦略」における政策体系の整理、4つの基本目標に係る KPI の見直し・新しい KPI の検討等について事務局から説明を行い、主に以下のような意見が述べられた。

(1) 政策体系の整理等について
 - ・施策全体について有機的に連携し、施策の好循環を図ることが重要ではないか。
 - ・人口減少克服は、行政だけが率先して取り組んでも難しい。経済界・産業界の意識が変わらないといけない。民間企業の役割を強く打ち出すことができないか。
 - ・第1期の地方創生においては、小規模の地方公共団体において比較的成果が出ている一方で、中規模の地方公共団体においては、あまり顕著な成果は出ていない。このような地方公共団体に、圏域の中で中核的な機能を果たしてもらうことが重要ではないか。
 - ・人口10万、20万の地方公共団体の中にも、合併を通じて、人口は増えたものの、生活拠点は合併前の状態のまま複数存在するところがあるなど、都市の性格は様々であるため、その性格ごとに対策を検討することが必要ではないか。
 - ・グローバル化の影響により、地域経済がかなり弱っている印象がある。地方創生の中でグローバル化への対応を打ち出す必要があるのではないか。
 - ・地方創生においても、外国人の増加を意識するべきである。外国人の増加という状況を踏まえた取組をどう見せていくのか検討するべきではないか。
 - ・Society5.0については、地方は基盤整備が進んでいないので、取組が遅れがちになってしまう。地方において Society5.0 が生活に密着する姿が見えると、取組を始める地方公共団体も出るのではないか。

- ・SDGsは目標が複数あるため、既存の取組がそのままSDGsに位置づけられるケースが多いが、地方創生としてどう捉えるか議論が必要ではないか。
- ・地方創生について、地域活性化担当部局だけの問題ではなく、まち・ひと・しごと創生法を踏まえ、少子化対策担当部局なども加わり、部局間で連携して一体的に進める必要があるということを、地方公共団体に改めて周知する必要がある。

(2) 東京一極集中の是正に向けた視点等について

- ・東京の成長を地方創生につなげる必要がある。このような観点からも東京一極集中をどう捉えていくか検討するべきではないか。
- ・人口の流れとしては多極集中の傾向にあるうえ、今後の道府県庁所在地の人口集中度の上昇度合いは、多くの道府県庁所在地で東京圏における人口集中度の上昇度合いを超えると予想されている。このため、東京だけを問題とするのではなく、例えば、札幌などの地方都市への過度な集中も避けるべきではないか。
- ・東京一極集中是正の妥当性については、地方創生の議論以外にも、災害リスクの関係など政府全体で検討するべきでないか。